

令和5年9月27日

保護者のみなさまへ

河内長野市立川上小学校
校長 池内 宏明

令和5年度 すくすくウォッチの結果について

仲秋の候、平素は本校教育のためにご支援ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

今年度4月に本校の5年生に実施しましたすくすくウォッチの結果について、分析（成果と課題）及び取り組みをご報告させていただきます。

1. すくすくウォッチの概要

(1)国語について

評価の観点別 平均正答率	川上小学校	大阪府
全体	76.4%	78.3%
知識・技能	76.4%	78.3%
思考・判断・表現	80.0%	82.4%

【概要】

平均正答率については、全体でも学習指導要領の観点別にみても、大阪府全体の正答率より低い結果である。領域別にみると、我が国の言語文化に関する事項や情報の扱い方に関する事項は大阪府平均より高いものの、言葉の特徴や使い方に関する事項は低い結果である。

〈特に成果が見られた問題〉

問題3(2)の「今年の目標は、本をたくさん読みます。」を「読むことです」と正しく書き直す問題では、正答率が80%で、大阪府の正答率より6%程度上回っている。問題8(2)の示された文の構造や、情報と情報との関係を理解して文の内容を正しく捉える問題では、大阪府より9%程度上回っている。短い文を正しく理解する力がついていると言える。

〈特に課題が見られた問題〉

問題3(1)の「私のかいた絵が、壁にかざりました。」を「かざられました」と正しく書き直す問題では、正答率が66%で、大阪府の正答率より10%程度下回っている。問題4(1)(2)の日常で使うローマ字を正しく読んだり書いたりする問題では、いずれも大阪府より5%程度低く、ローマ字の定着に課題があると言える。問題12(1)(2)の修飾語と被修飾語の関係や主語と述語の関係を捉える問題では、いずれも大阪府より14%程度とかなり下回っている。主語、述語、修飾語などを正しく理解することは、文章の内容を理解したり表現したりする上で重要であり、適切な教材を活用しながら取り組みを進める必要がある。

(2)算数について

評価の観点別 平均正答率	川上小学校	大阪府
全体	35.1%	37.5%
知識・技能	45.1%	48.0%
思考・判断・表現	10.0%	11.1%

【概要】

平均正答率については、全体でも学習指導要領の観点別にみても、大阪府全体の正答率より低い結果である。領域別にみると、「図形」領域は大阪府平均より高いものの、「データの活用」領域はかなり低い結果である。（「データの活用」領域川上小11.1%、大阪府24.4%）

〈特に成果が見られた問題〉

問題2(3)の長方形と正方形の面積を求め、その2つの面積の差を求める問題では、正答率が80%と高く、大阪府より10%程度上回っている。基本的な面積の求め方が定着している。

〈特に課題が見られた問題〉

問題1(1)の「60ページある宿題プリントを1日2ページずつ進めると何日で終わるか」を問われている問題では、大阪府より7%程度下回っている。「35日間ある夏休み」や「1日に4ページ進めるのは大変」など必要ない情報も含まれており、適切な情報を読み取る力が問われている。問題1(2)の棒グラフや折れ線グラフから読み取ることができることを選ぶ問題では、正答率が11.4%と低く、大阪府より13%下回っている。グラフをかくことができることも必要だが、グラフから様々なことを読み取る力をつけていく必要がある。問題2(2)の2つの数量の変化や関係を、表や会話の中から読み取り、□や△を使った式で表す問題では、大阪府より7%程度下回っている。

(3)理科について

評価の観点別 平均正答率	川上小学校	大阪府
全体	61.7%	62.3%
知識・技能	56.7%	57.6%
思考・判断・表現	73.3%	73.2%

【概要】大阪府と比べて全体の平均正答率は少し下回っているものの大差はない。領域別にみると、「エネルギー」を柱とする領域では大阪府より10%程度上回っているが、「生命」を柱とする領域では大阪府より7%程度下回っている。

〈特に成果が見られた問題〉

問題1(2)の「閉じ込められた空気は、押されると体積が小さくなること、体積が小さくなるほど、もとにもどろうとする力が大きくなること」を理解する問題では、正答率が77%と高く、大阪府より8%程度上回っている。空気の性質を避難所のエアベッドの中の空気の性質とつなげて、適切な言葉を選ぶことができている。問題1(4)のソーラークッカーの原理（光を当てるとあたたかくなることや、光を集めやすい性質など）から、より早くあたためる工夫を考えて、書き表す問題では、正答率が71%と高く、記述式であるが大阪府より14%程度も上回っている。

〈特に課題が見られた問題〉

問題2(3)の虫眼鏡の正しい使い方について問われている問題では、正答率が11%とかなり低く、大阪府の平均よりも23%も下回っている。虫眼鏡やルーペなどの観察器具を用いたことはあったが、定着していなかったと考えられる。観察で虫眼鏡やルーペなどを使う際には、正しい使い方を再度、確認する必要がある。問題2(6)の昆虫の体のつくりについて問われている問題では、正答率が40%と低く、大阪府より3%程度低い。昆虫の体のつくりとして、頭、むね、はらからできていて、むねにはあしが6本あることを理解しておけば正解できる問題であるが、問題形式に慣れておらず、「すべて」答えることを求められているのに、1つしか選択していない児童が多いという結果である。

(4)【わくわく問題（教科横断的問題）】について

観点別	学校の平均正答率	大阪府の平均正答率
全体	66.7%	67.1%
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	77.1%	75.9%
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	51.4%	51.8%
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	65.7%	70.6%
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	61.4%	63.9%
E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	85.7%	87.3%

【概要】

全体の平均正答率は、大阪府のそれと比べ少し下回っている。観点別にみると、観点Aは大阪府の平均と比べ上回っているが、観点C,D,Eにおいては大阪府の平均正答率を下回るなど、観点によって差が見られた。

〈特に成果が見られた問題〉

問題1(1)は、児童にとって身近な「ソース」を題材とし、種々の資料を読み取り、それに基づいて思考する力を問う問題であり正答率が77%と高い。また、問題3(2)は、会話のもととなる資料を選ぶ問題で、正答率はそれほど高くないが大阪府より12%程度上回っている。どちらの問題も図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえることができています。

〈特に課題が見られた問題〉

問題2(2)(3)は、ロボット掃除機の観察をきっかけとして、ロボットやAIに関連する諸技術やその活用に興味・関心を広げていく中で、論理的に思考し問題を発見・解決していく力を育むことを目的とした問題である。この問題で図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える、新たな課題を考える、自分の考えをまとめ、伝えるといった力が大阪府のそれより下回っている。特に問題2(3)は正答率が17%と低く、多くの資料の中から、条件に沿って自分の考えを書くことを苦手と感じている。

(4)児童アンケートについて

〈特に肯定的割合が高いアンケート項目例〉

質問番号	質問項目	肯定的な回答率	
		本校	大阪府
1	「自分にはよいところがある」と思う	94.3%	86.9%
11	まわりに困っている人がいると、早く解決するといいなあと思う	97.1%	88.0%
43	黒板に書かれたことをノート等に写している	100%	95.3%
47	話し合いをするとき、友達の意見を最後まで聞いている	94.3%	94.3%
61	家の人と、その日の出来事について話をしている	97.2%	83.1%

〈特に課題がみられたアンケート項目例〉

質問番号	質問項目	肯定的な回答率	
		本校	大阪府
37	学級会の話し合いでは、少数意見も大切にしている	62.9%	71.0%
40	その時間に学んだことについて、ふり返りをしている	57.2%	73.9%

【概要】

質問番号(1)の結果から、自分を信じ認める自己肯定感・自己有用感が高いことが推測できる。また、質問番号(11)(47)も合わせて、そのような思いを持つ仲間と共に過ごすことで安心して信頼できる友だち関係を構築し、様々な行事や取り組みに力を発揮してもらいたい。一方で質問番号(37)の課題も解決できるような集団としての成長を願う。

学習面では、質問番号(43)の肯定的な回答率は100%と素晴らしく、板書を写すその一つ上を目指したい。自分の考えを書くことも大切だが、質問番号(40)のふり返りを書くという習慣をつけることも目指してもらいたい。ふり返りは、その時間の学びを確かめ、次の課題を見つける学習サイクルの大切な一部分である。学び方が変わると、学習への取り組む姿勢が変わる。自ら課題を持ち、意欲的に様々なことにチャレンジしてもらいたい。

2. 調査結果を受けて

(1)学校が重点的に取り組んでいくこと

国語では、主語、述語、修飾語の基本の文法やローマ字の定着、算数では、グラフの読み取りや記号を使った式の表し方、理科では、虫眼鏡の正しい使い方や昆虫の体のつくりなど、今回、課題が明らかになったところは今後の学習の中で結びつくところで丁寧に取り上げ、確実に定着を目指していく。

複数の情報源から適切な情報を取捨選択して、それをもとに自分の考えを書く学習場面を国語、算数をはじめ様々な教科で設定していきたい。タブレットを用いて情報を集める際にも、適切な情報の選び方や引用の仕方、自分の考えの書き方なども丁寧に指導していく。また、発表する際に、相手に効果的に伝わるよう工夫する場面を取り入れ、そのような場面を多く取り入れることで自分の考えを書くことに抵抗がなくなるよう、根気強く指導を行っていきたい。

また、ふり返り活動を効果的に学習の中に取り入れていく。自分の学んだことを確かめ、次の課題を見つけるサイクルを確立していきたい。

(2)児童のみなさんに取り組んでほしいこと

○調べ学習をするときは、自分のめあてに合った資料はどれか、たくさんの資料の中から見つけ出し、どの言葉を使ってまとめたらよいか、またそこから考えたことは何か、相手がより理解してくれるためにはどんな工夫をしたらよいかをよく考え取り組みましょう。

○大切な言葉はしっかりと覚えるようにしましょう。また、自分が苦手なところはどこかを見つけ、自分なりにノートにまとめたり、練習問題に取り組んだりするなど、粘り強く取り組みましょう。

○作文や振り返り、テストの答えなど、書き終わった後に読み返しましょう。読み返すときには、読む相手に自分の伝えたいことが本当に伝わるのか、間違った表現をしていないかなどを見直し、文章をよりいいものに書き直す習慣をつけましょう。

(3)保護者のみなさまに協力してほしいこと

今回、配付いたしました調査結果をお子さまと一緒にご覧になり、学力・学習状況の把握をしていただきますようお願いいたします。これまで学習した内容について、「しっかりと身についているか。」「基礎的・基本的な問題は理解しているか」「学習した内容を学習や日常生活の中で活用しているか」など、ご家庭のご協力を得ながら学校としても指導の充実を図っていきたいと思います。

また、子どもたちが健康で意欲的に学習活動や行事に取り組んでいけるよう、規則正しい生活習慣の維持を引き続きお願いいたします。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。